

各 位

2017年5月10日
株式会社リットーミュージック

こんな先生に習いたかった！ 10代と接する人々の必読書！
福島の高校の国語の先生が、日本には数少ない演劇を教科として教える
ドラマティーチャーとなり、生徒たちと奮闘しながら、舞台『ブルーシート』（作：飴屋法水）で
「演劇界の芥川賞」と呼ばれる岸田國士戯曲賞を受賞するまで



インプレスグループで音楽関連の出版事業を手掛ける株式会社リットーミュージック(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:古森優)は、おもしろレーベル立東舎より書籍『高校生が生きやすくなるための演劇教育』(いいみちこ 著)を、2017年5月19日に発売します。

福島の高校で、たった1人で演劇を教えることになった国語の先生。そんな彼女は生徒たちと向き合い、「国語の先生」から「ドラマティーチャー」となります。そして、教育に奮闘する日々を経て、生徒たちと飴屋法水とで作り上げた舞台『ブルーシート』が、「演劇界の芥川賞」、岸田國士戯曲賞を受賞するのです。これは、そんな彼女の活動を追った、真実の物語です。

彼女がどうしてドラマティーチャーになり、高校生を教えるようになったのか。生徒と向き合うメソッドから、岸田國士戯曲賞受賞までの歩み、そして現在の取り組みまで、全てを語ります。

※ドラマティーチャーとは

学校で、クラブ活動ではなく、教科として演劇を教える先生のこと。日本には、現在数人しか存在しない。

こんな先生に習いたかった！ 演劇業界からも大注目

〈特別対談〉平田オリザ

〈特別寄稿〉前田司郎(五反田団)、藤田貴大(マームとジプシー)、水谷八也(早稲田大学教授)、多田淳之介(東京デスロック)、柴幸男(ままごと)

《書籍情報》

立東舎『高校生が生きやすくなるための演劇教育』

著者:いしいみちこ、平田オリザ、前田司郎、水谷八也、多田淳之介、柴幸男、藤田貴大

定価:1,620 円(本体 1,500 円+税)

発売:2017 年 5 月 19 日

詳細はこちら <http://rittorsha.jp/items/16317426.html>

《CONTENTS》

自己紹介～まえがきにかえて

1 演劇で子供は変わる？～いわきの前任校で学んだこと

2 ドラマティーチャー誕生～福島県立いわき総合高等学校のこと

★コラム 生徒と並走する先生 前田司郎

3 みちこ式演劇メソッド～高校生に「演劇」を教えること

★コラム 演劇演習室、万華鏡と化す——いしい先生の「リアルな身体」教育 水谷八也

4 自分と向き合うこと～(自画像)

5 他者と協働する～(あいさつ)

★コラム 演劇 LOVE、みちこ LOVE 多田淳之介

6 生徒たちの世界観を積み重ねる～部活動での作品作り

7 高校生とプロの演出家～アーティストとの作品作り

8 3.11～いわきに未来はあるのか

★コラム いしいみちこさんについて思い出したいくつかのこと 柴幸男

9 震災のあとで～あの日からを描いた作品と、まさかの岸田國土戯曲賞

★コラム 強さも弱さも、どちらも。 藤田貴大

10 新たなチャレンジ～いわきから、大阪へ

★対談 いしいみちこ×平田オリザ「生徒が生きやすくなるための演劇教育」

あとがき～表現教育が必要とされる時代

◎いいみちこ プロフィール

ドラマティーチャー(学校で、クラブ活動ではなく、教科として演劇を教える先生のこと)。2001年より福島県立いわき総合高等学校の総合学科の立ち上げに携わる。東日本大震災を経ていわき総合高等学校で上演された舞台『ブルーシート』(作: 飴屋法水)が岸田國土戯曲賞を受賞した。2014年より追手門学院高等学校教諭。

自己紹介～まえがきにかえて

自己紹介～まえがきにかえて

ドラマティーチャーって？

おはようございます。いいみちこです。私は日本の学校教育のなかではまだ珍しい、ドラマティーチャーをしています。ドラマティーチャーとは、クラブ活動ではなく、教科として演劇を教える先生のことです。私の教えているクラスでは、「数学」「物理」「英語」などと「一緒に、「演劇」が時間割表に載っています。

ドラマティーチャーって、欧米ではそんなに珍しくないのですが、日本ではあまり聞きません。それは授業のなかに「演劇」という科目を設定している学校が少ないからです。たとえ「演劇」という授業があっても、先生は外から来たアーティスト、ということが多いのではないのでしょうか。個人で演劇活動をしている先生はきっといますよね。演劇部の顧問の先生もいます。でも、教科としての演劇を教える学校の先生というのは、今のところとても珍しいみたいです。

高校生に演劇を教えていると言うと、多くの人は、シェイクスピアの戯曲を読んだ

り、有名なお芝居を練習させたり、コスチュームを作って上演するのがゴール、というふうに想像するみたいです。

でも、私の行っている演劇教育は、いわゆる俳優を養成することを目指してはいません。演劇の研究者を育てるつもりは、もったありません。演劇を通して、高校生たちのコミュニケーション能力を高めていきたい。あるいは、自分の身体の可能性についてもっと知ってほしい、実生活でよりよく生きる方法身につけてほしいと願って、この教育をやっています。

私の授業は、ほとんど普通の教室では行われません。裸足で、ジャージとTシャツで、演習室の床に汗を流しながら行われます。高校生たちに「シェイクスピアが」とか、「アレヒトという人は」とか言っても、多分ポカン。もちろん、シェイクスピアの戯曲のことや演劇の長い歴史については、知らないよりは知っていたほうがいいのだけれど、そちらが主眼ではないんです。

私の授業には正解がありません。ワーク(実技プログラム)を行って、感じたり考えたりしたことが答えです。その感じたり考えたりしたことは、ワークが終わるたびごとにみんな「ふりかえり」をして、言語化して共有します。普通、授業は「できる」ことが求められますが、私の授業では「できる」ことが一番いいことではありません。



いわき総合高校の校門

の一部では話題となったわけですが、正直に言えば、教育の世界でもセンセーションに取られられるかな、これでこういう教育の価値が少しは上がるかも、と期待したのに、特に何も起こりませんでした。やっぱり演劇はマイナーな文化だからなのか、がっかり。

それでもこの経験を通して、学校教育で行われる演劇が、演劇・教育その両者にとって可能性を広げるもの、という思いを一段強くしたのです。私はもともと、国語教師でした。演劇部の顧問ではあったけれど、公立高校で普通に現代国語や古典を教えていました。そんな私が、なぜドラマティチャーになったのか。その大きな転機は、福島県立いわき総合高等学校へ赴任したことでした。この高校は総合学科で、「芸術・表現系列（演劇）」という選択科目群を設定しています。この総合学科と演劇の授業の立ち上げを行ったのが、私のドラマティチャーとしての始まりでした。



けっこう大きな野望を抱いている私の、「演劇教育奮闘話」に、どうかしばらくお付き合いいただければと思います。

せん。「できて」しまうと、そこで考えることをやめてしまいがちです。だから「できない」ときこそ、自分と向き合ったり、考えたりするチャンスなんです。できないことや失敗をポジティブに捉えるのが、私の授業です。授業ですから、もちろん試験があります。一学期に1〜2回、ワークで発見してほしい力を評価項目にして実技試験をします。だからちゃんと成績もつきます。評価するのはとても難しいですけどね。

カリキュラムのなかでも注目すべきは、授業の一環として、プロの演出家やアーティストを招へいし、高校生たちと作品を協働制作してもらい公演をするという活動です。毎年、プロの演出家いわきまで来てもらって、泊まり込んでもらって、時間をかけて高校生たちと一緒に公演作品を作っていくのです。

この活動のひとつの大きな成果が、第10期生のアトリエ公演から生まれた、船屋法水さん作・演出の「ブルーシート」でした。この作品は、わずか2スナージの上演しかしていないのですが、演劇界の芥川賞とも呼ばれる第58回岸田國士戯曲賞を受賞したのです。

県立高校の高校生たちが作った作品が、権威ある岸田賞を受賞するという前代未聞の出来事は、本当に快挙だったと思います。自分たちでも驚きでした。当然、演劇界

前例もほとんどない、何もなかったところからカリキュラムを組みあげていく大変さは、またお話しします。以降13年間、この高校で文字通り試行錯誤を繰り返してきました。いつも新たな問題に直面しては、なんとか解決策をひねりだしていく、無我夢中の毎日でした。

日本の教育を変えたい

私は現在、いわき総合高校を離れて、大阪にある私立迫手門学院高等学校の「表現コミュニケーションコース」に在職しています。ここで朝から晩まで、表現教育を行っています。いわきで行っていたことと違うのは、演劇に加え舞踊教育もあわせて行うことで、より質の高い教育を提供できていることです。2014年に新設されたこのコースでもやはり立ち上げから関わり、17年の3月に、初めての卒業生を送り出しました。まだまだやりたいこと、やるべきことは多くて、こちらでも試行錯誤の途上なのですが、この地で表現教育の可能性を広げべく、挑戦を続けています。「日本の教育を変えたい」。さらには、高校生だけでなく、「日本中の人々の身体を変えたい」。

自己紹介「まえがきにかえて」

ドラマティチャーって？
日本の教育を変えたい

002

1 演劇で子供は変わる？「いわきの前任校で学んだこと」

ドラマティチャー誕生前後
国語の先生時代
演劇部の顧問になったわけ
学校は我慢するところ？

013

2 ドラマティチャー誕生「福島県立いわき総合高等学校の1年」

ドラマティチャーの始まり
演劇授業の立ち上げ
「確かな手」たえ
学校の外の大人

025

★コラム 生徒と並走する先生
前田司郎（五反田田 主宰）

038

3 みちご式演劇メソッド「高校生に「演劇」を教えること」

まずは身体作りから
表現に必要なこと
「目」に覚えなさい「こと」は胡散臭い
他者を想像するために
「からだ」が「こと」体育の授業
「アイコンタクト」と「脱力」
声のバリエーション

043

★コラム 演劇演習者、万華鏡と化す「いしい先生の」リアルな身体と教育
水谷八也（早稲田大学文化構想学部 教授）

060

4 自分と向き合うこと（「自画像」）

（「自画像」）とは
（「自画像」）を作る
（「自画像」）を通して

065

5 他者と協働する（「あいさつ」）

（「あいさつ」）とは
協力して新しいものを生み出す
生徒たちのふりがえりから

079

★コラム 演劇LOVE、みちごLOVE
多田淳之介（東京アスロック 主宰）

094

6 生徒たちの世界観を積み重ねる（部活動での作品作り）

高校生はフレイターなんて書かない？
ただ与えるだけじゃない
正解も不正解もない
自然なお芝居とは

099

7 高校生とプロの演出家「アーティストとの作品作り」

作品ができるまで
誰に演出をお願いするか

111

8 3・11「いわきに未来はあるのか」

震災の影響
この子たちの未来

119

★コラム いしいみさちさんとついで思ひ出したらくっさのMATE
柴田孝博（他） 主宰

126

9 震災のあとで「あの日からを描いた作品と、まさかの岸田國士戯曲賞」

怒りを泣ぼろ
温度差と分断
覚えていたのに、忘れていくMATE
「フルシート」制作ドキュメント
奇跡の受賞

131

★コラム 練習も練習も、どちらも
藤田貴大（マームとシンシー 主宰）

145

10 新たなチャレンジ！いわきから、大阪へ

新たなオファー
新天地へ
先生、おっせい
先輩がいらない
私が描き続けるもの
演劇はたくさんさんの形がある

★対談 いしいみち×平田オリザ「生徒が生きやすくなるための演劇教育」

167

あとがき「表現教育が必要とされる時代」

181

高校卒業後に2度と舞台上に立つことがなくなってしまい
他人との違いをおもしろがる
人と人をつなげるために
次世代につながる教育を

1 演劇で子供は変わる？

いわきの前任校で学んだこと



◆俳優志望者の 教育ではなく……

いしい オリザさんと私がお仕事で一緒に
するようになったきっかけは、2003年
に福井県で開催された演劇全国大会のとき
です。いきなり、オリザさんに詰め寄った
んです。

平田 そうだね、詰め寄られた(笑)。

いしい たしかそのときの顧問研修会で
「今度いわきに演劇教育を取り入れた公立
高校ができます。いろいろやりたいことが
あるので、教えてください」とお願いしま
した。「意外にもあっさりと「あ、いいです
よ、メールしてください」とおっしゃって

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地: 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング □設立: 1978年4月10日 □資本金: 1億円 □決算期: 3月31日 □従業員数: 81名(2016年3月31日現在) □代表取締役: 古森優 □事業内容: 音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社: 東京都千代田区、代表取締役: 唐島夏生、証券コード: 東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報宣伝担当

Tel: 03-6837-4728/ E-mail: pr@rittor-music.co.jp